

## 第7節 ひとりひとりが活躍できるむらづくり

### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「ひとりひとりが活躍できるむらづくり」の実現に向け、全村民が主体となり、互いに支え合いながら、自分らしい生き方を見つけられる社会の実現を核としています。

住民協働については、年齢や背景に関わらず「みんなが寄り添い、互いに助け合いながら、自分らしく暮らすことができる」地域社会を築くことをめざします。地域活動への参加を促し、相互扶助の精神を育むことで、誰も孤立することなく、それぞれの能力と個性を活かして地域を支える仕組みをつくります。

また、共創の理念に基づき、村民と行政が対等な立場で互いに寄り添いながら、ともにむらづくりを行う体制を確立します。行政が一方的にサービスを提供するのではなく、村民の知恵やアイデア、活力を積極的に取り込み、課題解決や政策形成に反映させます。この行政と村民の協働による「共創」の推進こそが、持続可能で質の高い行政サービスを提供し、全村民が村づくりの主役として活躍できる活気あるむらづくりへとつながります。

### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
大字活動への支援が充実している	24.1
住民参画によるむらづくりが進められている	26.5
地域における交流やふれあいの機会が充実している	26.3

### ○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
地域づくり支援事業の取組み件数	62	73
むらづくりの分野 7-1		
アンケート等で収集した意見数	200	500
むらづくりの分野 7-1		

出張村長室の延べ開催数	—	8
むらづくりの分野 7-2		

## ○現状と課題

- ・村内全域の集落において高齢化は進んでおり、伝統行事・道路・用排水路・農地などの維持管理を集落で行うことが難しくなっている。
- ・高齢化率は50%を超え、高齢者の独居世帯、高齢者のみの世帯が増加傾向にあり、今後、支援の必要な集落は拡大することが予想される。
- ・村の豊かな自然をはじめ、歴史・文化などは、都市部にはない魅力・価値があり、こうした資源の保存・伝承、さらには活用によって地域の活性化に結びつけるためにも、大字などの地域づくり活動への支援や、ボランティア活動などとの連携を強化していく必要がある。

## ○取組の方向性

- ・今後、集落機能の低下が著しい集落の増加が見込まれることから、集落の困りごとを把握し、集落機能の維持、さらに集落活性化のための支援対策を進める。
- ・村民が暮らしのさまざまな場面で寄り添い、助け合いながら、高齢になっても安心して生活できる環境づくりのため、地域コミュニティづくりを支援する。
- ・大字、ボランティア団体などとの連携を強化し、村民が地域行事などに参加しやすい体制と活力ある豊かな地域社会づくりを進め、交流の場を広げる。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・どんな人（海外から来た人、帰国子女など）でも住みやすい村にしてほしい。そのためには、“英語”という言語を通して、たくさんの“繋がり”を作ってほしい。（20代・女性）
- ・本当に困っている人に手を差し伸べられる社会になってほしいです。（30代・女性）
- ・『互いに寄り添い支え合う』ではなく、対立や分断が目立ってしまっていて残念。住民同士互いの意見を尊重し合いながら、安心して本音で話したり対話ができる村になってほしい。（40代・女性）
- ・住民の奉仕作業など、なんでも毎年どおり前年のとおりにするという圧力があり、表立って言われずとも影口をささやかれる。女性や若者が参画しやすい地域づくりの推進が必要ではないか。（50代・女性）
- ・山添で住んでいるみんなが幸せになれる政策をしてもらいたいです。（60代・女性）
- ・大字の役員が、仕事との両立が難しく、役員をしながら住めないのではないかと思います、村外に引っ越したり、帰って来ない原因になっているのではないかと。（60代・男性）
- ・若者達が戻っても、負担にならない役割（区長、その他）。（70代・男性）
- ・広く次世代の意見を聞いて村政に反映する。（70代・男性）

- ・女性や若者が参画しやすい地域づくりの推進、子どもの育成支援を通じて、ごく普通の人間が、ごく普通に暮らしていける世の中であることを願っています。  
(70代・男性)

## ○具体的な取組

### 1 集落対策

- ・集落の機能維持と活力向上のため、集落の困りごとの把握や集落へのサポート体制を強化し、集落の実態に応じて必要な支援を行う。
- ・民間企業や社会福祉協議会などとの連携に加え、外部団体やボランティア、大学生などの受け入れ体制づくりを行う。

### 2 地域活動の支援

- ・自然や伝統文化などの資源を活用した地域活動を村内団体だけではなく、外部の人材や団体を招致し、地域との連携を強化し、魅力と活力ある豊かな地域社会づくりに向けた取り組みの支援を行う。

## ○現状と課題

- ・協働・共創のむらづくりを推進するためには、住民自治の考えに基づき、村の課題や取組みなどについて村民、議会、行政がそれぞれの役割や責務を果たしていく必要がある。
- ・特に若者や女性のむらづくりへの参画が十分に進んでいないことが課題であり、若者や女性の意見をむらづくりへの反映や、村内外の多様な意見に対応していくことが必要になってきている。

## ○取組の方向性

- ・すべての人が明るく、楽しく、前向きになり、豊かに暮らせる地域社会をめざしていくために、協働・共創のむらづくりが必要であることについて、意識改革を推進する。
- ・デジタル技術などを活用してむらづくりの情報を共有し、政策の計画段階から村民・議会・行政が議論を深め、村民の多様な参画による協働・共創のむらづくりの具現化を図る。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・行政について、村民が関心を持つために行政の内容を知る機会が欲しい。（20代・男性）
- ・山添村になって何十年も経つのに、旧村単位で物事を捉えている。山添村のこれからを考えるにあたっては、一つの村として議論できると良いな。（40代・女性）
- ・10年前に比べて、地域に無関心な住民が増えているように感じる。自分や家族が優先の人が増え、『自分達の地域』という意識が少ない。（40代・女性）
- ・不満からではなく、協働や連携して課題を一緒に解決したい。何気ない会話含め、コミュニケーションをとり、協働・連携している姿を見せていただきたい。（40代・男性）
- ・村はもっと、住民にとってプラスもマイナスも正確な情報を開示し、共に課題を捉えて、住民同士で考える機会や場をもち、一つになっていくようにしてほしい。（40代・女性）
- ・自治会活動の役員に負担が多くせつかくの自然の豊かさや人のつながりの良さを実感できないのではないかな。（60代・男性）
- ・「小さな事からでも」と考え、行事にはできる限り参加するように心がけております。（70代・女性）

- ・地域が一体となって前に進むためには、まず行政が信頼される存在であってほしいです。若い世代が希望を持ち、安心して「住民と共に歩む姿勢」を強く求めたい。(60代・女性)
- ・目安箱を設置して欲しい。(70代・男性)
- ・区長会も役場から報告をするだけで集めても時間の無駄。仕事においても丁寧なのはありがたいが、もっと能率を上げるなど、役場の職員に民間からの雇用を考え、やってみては！(60代・男性)
- ・若者の山添観(感)も聞いてみるべきと思う(外に出ている若者にも)。山添村は名阪の中心にあり、決して未来は暗くはない地域にあるから。(70代・男性)
- ・8000人居たときは村会議員が13人で今3000人村民が居る。次回の村議選で議員は4人か6人に減らせないものか。(70代・男性)
- ・住民が行政に関する自由な意見を言える場を創設してほしい。(70代・男性)

#### ○具体的な取組

##### 1 議会・行政・村民の共通意識の推進

- ・議会・行政が共通の認識を深め、村民とともに協働・共創によるむらづくりを進める。

##### 2 情報共有と広報広聴機能の充実

- ・広報紙やケーブルテレビ、ホームページ、SNSなどを活用し、若者から高齢者まで受け手に合わせた分かりやすい情報の提供と共有化を図る。
- ・土地情報システム(GIS)を活用し、行政情報の公開と、住民からの地域情報の提供を双方向に行える体制を整備する。

##### 3 意見収集の充実と村政への住民参加の促進

- ・多様な意見を計画等に反映するため、村長をはじめ役場職員等が地域に赴き住民と会話する「出張村長室」を実施する。
- ・デジタル技術も活用し、「村民の思い」を多世代から幅広く収集し、政策決定の検討基準とする。

##### 4 多様な人材の参画

- ・各地域や幅広い年齢層などからの意見が反映できるようにするため、参画しやすい環境づくり・サポートにより、村民参加によるむらづくりを進める。また、誰もがそれぞれの個性と能力を発揮しさまざまな活動を行える協働・共創によるむらづくりを推進する。

##### 5 地域コミュニティとの連携

- ・地域コミュニティ(大字)との連携を深め、「自助・共助・公助」の考えのもと、地域

の活性化や防犯・防災、環境保全、福祉などのほか、人口減少や高齢化によって地域コミュニティが抱える課題の解決や維持・活性化に向け、ともに取り組む。